
サカタツ！！

L.B.

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

サカタツ！！

【Nコード】

N5356E

【作者名】

L・B・

【あらすじ】

坂本辰夫・通称サカタツの日常生活を描く。笑いはちょっとだけあり。涙は主人公が時々影で泣くだけ。主人公の目線で物語が進んでいく学園コメディ（？）

自己紹介

はじめまして、こんにちわ！！

早速ですが、自己紹介させていただきます！！

俺、坂本辰夫。

さ・か・も・と・た・つ・お・でっす。

皆からは「サカタツ」って呼ばれてます。

皆さんもどうぞサカタツって呼んで下さい。

今、高校2年なんですけど実は18歳。

留年じゃないっすよ。小さいころ病氣して、ガッコ行けなかったただけです。

今はもう全然元気元気。ただちよつと背が伸びなかったかなー。

親父が180で母さんが165。低くないすよね。

でも俺170しかないんですよ。

もうちよつと高ければ言うことなかったんだけど。

で、この物語なんすけど、

一応俺が主人公です。

作者が舵握ってるんでどうなるかわかんないっすけど ははっ

メイン舞台は学校と寮かな。

私立高校で家からガッコまでが遠かったんで寮生活してます。

ほんと面白い人ばっかなんですよ、うちの寮。

ってかバカ？みたいな。（こんな事いうと先輩に殴られるけど）

まあ、物語っていつでも毎日ガッコであったことを

書いてくだけなんすけどね。

とりあえず、楽しんでってもらえればありがたいです。

サ
カ
タ
ツ

文化祭の準備に大忙し…なのは俺だけ？

「ここかつ？ここがいいのか？」

「あつ、違うの もつと」

「ここか？そりゃ！！」

「あぁっ そこ！！あつあつ」

『ああああああああ！！！！』

・・・つて

「先輩！！ポスター1枚張るだけで無駄な小芝居やめて下さい！！」

気色悪いから！！

俺の日常は、こんな感じです。

ユニーク（？）な人達に囲まれて、毎日が……大変なんだよおお

今日は、1週間後にある春の文化祭準備に大忙しです。

文化祭は年に2回、春と秋にあるんですけど

春は特に学生間の親交を深めるのが目的です。

慣れない作業を力を合わせて…って言うのが理想なんですけど

まあ、先輩らは3年目。慣れてるんだろうけど、いちいち面倒くさい…

「あ？サカタツ今、気色悪いって思っただろ！！」

「この人達面倒くさいって思っただな」

あー、はいはい。

「お前！！はいはいとか思っただな？面白くねえ後輩！！」

先輩うるさいんですってば。声がでかい。

この、声のでかい人が藤原健太郎先輩。皆からは、「ダイ君」「ダイ先輩」

と呼ばれてて、結構人気がある。

何故、「ダイ」なのかって、…それはその声と身長からなんだろうな。

先輩が笑い出したら校舎別でも余裕で聞こえる聞こえる。

身長も192センチ…。筋トレマニアで体鍛えてるからムツキムキだし。

高いところにポスター貼るのも脚立がいらないし。べんり…

「お前！！今また俺のこと筋肉馬鹿で便利…とか思わなかったか？」

便利、とは思いましたけど筋肉馬鹿とまでは思っただけです！！

「ダイうるさい。お前をからかってお前の気を引くのがサカタツの手なんだよ。惑わされるな、俺と言っものがありながら」

ってシンちゃん先輩！！俺そんな気ないです！！

この、コンパクトな人（と言っても身長１６３センチ）が、新谷義樹先輩。

「シンちゃん」「シンちゃん先輩」と呼ばれてて、ダイ先輩とつるんでるから

でこぼこコンビとして有名。

「お前さあ、ダイのに比べて俺の紹介簡潔すぎない？」

ギク。

いや、何のことですか

「…なんすか自己紹介って」

「まあ、いいけどさ」

このさっぱりしたところが大好きさ

「ダイっ、今サカタツは俺のことを好きだっと思ったぞ!!」

「何ー!!新谷は渡さん!!」

もーいいすから、シンちゃん先輩も心読まないでください。

ちゃっちゃんと済ませて次取り掛かりましょう。

『ドライな後輩持つと大変ね』

どっちがだ!!

「シン、ダイ、そっちの仕事一段楽したら3年の手伝いに来てくれ。人数が足らん」

うおっ、びつくりした！！近藤先輩か！！
いつもにゅっと現れて驚かされる。

うちの学校には生徒会がない分代わりに各学年に3人ずつ総代（それぞれ文化・体育・一般）

がいるのだが、一番面倒な一般の総代を務めているのがこの近藤先輩。

総代は、「その方面において秀でている者」が務めるだけあって成績は学校一。

これが3年連続なんだからもつと凄い。

ちよつと口は悪いが、面倒見のよい性格で、嫌われることはない。自分に厳しく他人に厳しいそんな先輩は文化祭にも手を抜かない。

「受験で忙しいと言って3分の2は帰りやがった」

まあ、受験勉強はどれだけ早く取り掛かっても早すぎることはないですからね

「あいつら文化祭当日参加する権利を剥奪してやろうか」

そんなことに権力行使しなくても…

「その点寮生は参加率100%だろ？スゲーな」

はい、何と言っても寮長が寮長ですから。

「当たり前だ！！サボる奴がいれば俺が許さん！！」

そうです。ダイ先輩です。

この前の寮の大掃除サボった3年の先輩に、13時間かけて説教したアツイ（暑い）人です。

殴られるよりねちねち言われるより、真っ向に説教されるのが一番きついのを、みんな身を持って知ってますから。誰もサボりませんよ。

ちなみに総代体育担当もダイ先輩です。
底なしの体力。

「お前の後輩はたった今お前をけなしたようだが？」

ひいひいっ 読まないでください！！

「なにぃ …… むもっ」

すばやくダイ先輩の肩に乗りシンちゃん先輩はダイ先輩の動きを封じる。

「はいはい。もういいでちゅー いきまちょうねー」

「あう。」

「サカタツ、寮チームの管理はお前に任せるから。サボる奴がいたら」

『俺に言え』

近藤先輩も加わって、3人のユニゾンがサボったらどうなるかの恐

ろしさを倍増させる。

格好いいー …… 怖え。

「…まかして下さい。行つてらっしゃい」

「フジワラ号！！3年の教室まで発進！！」

「あうー！！」

シンちゃん先輩を肩に乗せたままダイ先輩はものすごいスピードで
発進した…。

やっと平穩が… って全くポスター貼り終わってないじゃん！！
もー…… しくしく

結局俺が脚立持ってきてポスター貼ったんですよー。

3人の脅しのおかげで、誰もサボる人がいなかったんでよかったす
けど。

ちなみに、うちの学校は各学年35人〜40人一クラスで12クラ
スあって、

それぞれのクラスで出し物をするんですけど、
3年だけは春が最後の文化祭なんで、2クラス合同で計6つの出し
物をするようになります。

最後だけあって何でもかんでも本格的。

寮生も一つ出し物をする事になってるんですけど、

1年から3年までごちゃ混ぜじゃないっすか

趣向がまとまなくていつもテーマが良く分からない出し物に…

今年のテーマ

「青春？むせび泣くマンドラゴラ。恐怖の青い汁」

何の出し物かわかんないでしょう？！

まあ、内容は後日語るとして

今日のところは何かもう疲れちゃったんで
おしまいにします。

そんじゃ！！

サカタツ

眠れぬ夜を過ごしたワケは

あー！！ねみいー！！！！

こんちわ。サカタツです。

今日はめっちゃ眠いです。

何でかって言うと、昨日の文化祭の準備で疲れて寝てるところを
火事騒ぎで妨害されたからです。

俺が寝始めたのが夜の2時。起こされたのが4時！！

2時間しか寝てねえ！！

お肌にできものが出来ちゃう！！

気にしてないからいいけど！！

…すみません、寝てないもんで妙にハイテンションです。

それからずっと現場收拾して、何やかんやしてたら学校行く時間にな
ってそのまま
直で授業出て…

今、学長室でことの次第を説明してるところです。

「さて、坂本。前置きは終わりましたか？」

なっ

「何のことっすかー。やだなあ」

「私は無駄な時間が嫌いです。早速詳細を述べなさい」

このおっさん嫌いだー。

冗談通用しなーい！！

学長でもないくせに…

「学長代理ですから学長がいないときは私が学長のようなものです。分かるでしょう？寮長代理の君なら」

もう、みーんなボクの心の中読むんだからー

ってつかつなと言えねえ！！

ダイ先輩が救急車で運ばれてった怪我人その他の付き添いで病院行っちゃったから

同じ部屋の俺が強制的に寮長代理をする羽目に…

本当なら副寮長のシンちゃん先輩が出るべきなんだけどあの人面倒くさがりだから、一緒について行っちゃった…

「坂本。で？」

はい、すいません。

「えーと、本日未明、男子寮東棟、3階302号室より火の手が上がりました」

「原因は？」

「赤坂先輩です」

うん、そうとしか言えない。

「赤坂か…」

そうです。赤坂先輩は、学長代理でさえ頭を抱えるような人物です。

「で、今度は何してました」

「寝ぼけてヘルメットを鉢にしてわざわざ備長炭で秋刀魚焼いてました」

そしてそのヘルメットと秋刀魚から出る煙を吸った同室の先輩二人が大事を取って病院に運ばれ、

赤坂先輩自体はこれまた寝ぼけたまま部屋から飛び降り池にダイブ。たらふく金魚を飲んで腹痛を起こし共に搬送され、

隣の部屋の1年生が身の回りのものを持って逃げようとして持ち上げた瞬間ぎっくり腰を起こし、これまた入院、と。

「どのような対策を講じてもあいつの癖を封じることとは無理なんですかね…」

そうです。赤坂先輩は、寮の歴史をことごとく塗り替えるほど、寝

ばけたら恐ろしい人です。

普通部屋は2人部屋ですが、赤坂先輩の部屋だけは先輩の変な行動を抑止できるように3人部屋になってます。それでもこの3年で救急車出勤15回（うち13回は赤坂先輩が誤電）、消防車・パトカーそれぞれ8回、自衛隊・レスキュー・タクシーなど、とりあえず公共の機関に迷惑掛け捲ってるんです。

近所住民からの苦情も数知れず、先輩が徘徊して持って帰ってきたものを元の場所に戻すのにも一苦労……

「どうしたものか」

「さあ……」

「そのほかに非の打ち所がないだけにねえ」

「ねえ……」

「文化祭前だというのに」

「ねえ……」

「…君もう帰っていいですよ」

まってました!!

「ほんとっすか？じゃ、おつかれっす!!学長代理!!」

いやあ、寮長代理の仕事ってたーいへん

…これからダイ先輩に報告して、また文化祭の準備して、宿題して…
今日も寝れるのかなあー!!!?

「ああ、ねむ…」

「ああ、坂本。ダイとシンはいつ帰ってきそうだ？」

うわ!!! また近藤先輩!!! 神出鬼没!!!

「あー、腰痛めた1年以外軽症なんですすぐ帰ってきてもいいと思うんですけど」

「ふ…ん、困ったな」

「どうかしたんですか？」

「すぐに総代集会を開きたかったんだが」

総代集会。生徒会が無い分総代がすべて取り仕切るんだけど、なんかあつたらすぐに集会を開くことになっている。各学年体育・文化・一般の計3人、3学年で9人。それプラス寮長んだけど、今年はダイ先輩が体育総代と寮長を兼任してるから、副寮長のシンちゃん先輩が寮長代理を務める。その10人の決定した事項はかなり重い。

「やっぱ赤坂先輩の件響きそうっすか」

「いや、嚴重注意だけに済ませたいんだが…」

…?

「もしかしてよくあるパターンすか」

「ああ。運ばれた1年の親は代議士だ」

「…痛いっすねえ。なんか言ってるんすか？」

「今は病院にいると思うが、もしかしたらダイに何か言ってるかも知れんな」

それでダイ先輩の帰りが遅いのかも

「とにかく、ダイとシンを見つけたら議会議室に来るように言ってくれ」

はい、了解です。お疲れ様っす、総代！！

「ああ、お前もな」

…ことごとく心読むなあ。

ああ、ヤバイ。マジで目が開かなくなって来た…
寝たら報告できねえし

ちょうどいいところにベンチが…

ちょっとだけ

ちよっただけ横になろう

ちよ…

……。

………

『ガッハッハッハッハッハッハ！！』

ビクう！！

「あいたあ」

ベンチから落ちてしまった！！

はずかし！！

誰も見てなかっただろうな

「そーうだったんですかー！！お父様も寮長を！！」

あの声は

「君は体育総代と寮長を兼任してるのかね！！」

「もしかしてお父様も？！」

『ガッハッハッハッハッハッハ！！』

んんん何だ何だ

あのうつさい二人組みは

「おお、サカタツ！！何やってるんだそんなところ（ベンチの下）で」

「ダイ先輩」

と、こっちのまたアツい感じのおっさんは？

「こちら俺たちが迷惑をかけた1年の杉田君のお父様だ！！お父様もこの学校出身だそうだ」

「さかたつ君というのかね。面白い名前だね。ハッハハハハハハ」

はっはははは…

「いやあ、お父様。ご子息には本当に御迷惑を」

さつきからダイ先輩、お父様って何かキャラが…

「なーになに。焦ってしくじったのはあいつだ。鍛えなおさねば」

「いえいえ、火事ともなれば誰もが動転してしまいますよ」

「それこそ君は大荷物を担いだまま倒れていた息子を担いで下りたんだろう？」

ああ、化けモンだと思ったよ。荷物だけで30キロはあったもんな

「いやあー、恐れ入ります」

お、恐れ入りますう？先輩そんな言葉知ってたんだ。

「サカタツ？今なんか言ったか？」

「いえ！！思ったとしても言ってません！！」

「ま、ま。藤原君、それじゃ懐かしの母校を案内してくれんかね」

「もちろんです、お父様」

『ガッハッハッハッハッハッハッハ！！』

「じゃあな、サカタツ」

は、あ。

なんだったんだ、一体。

「ふむ。集会は解散でよさそうだな」

だああああああああ！！

近藤先輩！！どこから出てくるんすか！！

「議会議室まで聞こえたよ、二人の声」

議会議室って別棟…ひえー

ってか先輩も別棟からここまで来るの早すぎ。

「ダイにあんな才能があつたなんて知らなかったな」

そうですね。俺もです。いつもうるさいところとアツいところと気色の悪いところしか見たこと無かったから、おっさん相手に対等に話してたのはすげえよなあ

「体育会系ですから礼儀正しいのはあるとして、おっさんに取り入るのもうまいような…」

「ああ、あいつもいいとこの坊ちゃんだからな」

どああああああ！！今度はシンちゃん先輩！！
何で皆人間が登場できないようなところから登場するんだ！！

「脅かさないでくださいよ！！」

「いや、お前はいつでも驚いてくれるから」

意味わかんないですって！！

「そうなのか？」

え、俺スルーっすか先輩

「あいつの母ちゃん元華族の出らしいぞ」

華族ってカゾクって何時代だよ！！

「父ちゃんFW3社の副社長。ちなみに社長はじいちゃんね」

FW3（エフヴエードライ）って保険会社の？

俺は保険のことなんてよくわかんないけど、この保険会社のCMはよく覚えてる。

何ちゅーか、無駄にアツいCMで…

「ちなみにFW3」フジワラさん、です」

しよーもねえーネーミングー！！絶対ダイ先輩の家系だ…

『知らなかった…』

「とりあえず、文化祭は続行でイイと思うよ。赤坂もしばらくは起きないだろうし」

え・なんでですか？

「あいつ俺が大事に育てた金魚たちを食ったからな。あまりに腹立ってトドメさしといた。

そのおかげで3匹戻ってきたけど。ホレ」

ビニール袋の中には3匹の金魚が…

心なしに溶けてる様な…

いや、え？トドメって。

さらっと爆弾な発言

もしかして、もしかして、うちのガッコで一番怖いのって…

「うん、多分オレ」

自分で言ったー！！って言うかまた心ン中読まれたー？！

「そうか、すまなかつたな。」

近藤先輩またスルーだしー！！

いつでも涼しいなあこの人

「とりあえず、坂本。疲れただろう？早く帰って休め。明日から文化祭準備再開だ。一日中断した分急がないとな」

そうですね…なんかもうホント色々あつて疲れた。疲れ切った…

「すみません、ありがとうございます」

失礼します…

今日は、色々あつたなあ…

もう何か考えるのも面倒。早く寮に帰って寝よう。

まだ匂い残ってるのかなあ。

まあいいや秋刀魚の匂いなら。

いいのか？

ああ、わかんねえ

すみません もう眠くて思考回路がうまく

機能しない。

明日には元気になってると思うんで

とりあえず

おやすみなさい

サカタツ

死んで花実が咲くものか

サカタツです!!

今日は授業が長引いて文化祭の準備に遅れました。

寮チームの教室の手前にいるんすけど、

おっそろしい声が聞こえてきたんで、入るのを躊躇してるところです。

「ばっ…村上い!!卵直接レンジ入れんっ…」

「先輩!!食材が逃げてます!!踏んで踏んで!!」

「馬鹿かお前踏めるかっ!!てかこんなもん材料にすんな却下じゃ却下!!」

「…実験食材A…8秒後に腹痛。不可」

「大川?!起きろ大川!!保健室…救急車っ!!」

「一族の恨み決して忘れんぞ祟ってや…ああぎゃあああああああああああ
あああ……………」

「誰か止めろ！佐藤がラリって飛び降りそうになってんぞ！」

「なあ、お前顔に緑のぶつぶつできてっぞ」
「お前こそ」

「……………！！」 「……………！！」

「……………」

「……………」

……………

……………ばばばばバイオハザード……………？

「お、サカタツ。中入らんのか」

あ、ダイ先輩。それが…

「ああああああああああ」

……
こんな感じです

「…さて。3年手伝ってくるわ」

「見捨てないで下さい！」

つてかあんた寮長でしょ
とめましようよこの事態。死人でそうっすよマジで！！

「む…それは」

行ってくれますか？

「…聞かんかったことにする」

逃げた——！？

「お前寮長代理だろ！お前行けっ」

そんな！！

「扉は俺が開けてやるっ」

えっ、ちょっ…

そっうと目にも止まらぬ速さで扉を開きっ！俺を突き飛ばしっ！
また扉を、閉めた！

俺のめに飛び込んできたものは……

「うっうわぁああああああああ……」

自主規制 放送禁止 自主規制 放送禁止 自主規制 放送禁止

「すっすまん、サカタツ。寮長がここで欠けるわけにはいかんだ。
わかってくれ……」

そうしてサカタツの一生は幕を閉じた……

先輩勝手に話シメないで下さい！
ってかマジで無理なんで今日はホンとにここま……

へぶっつ………！！！！

ピ

サカタ………

Green Green ♪

…んちわー

サカタツです。

元気が無い？

そう、元気ないんすよ

なぜでしょー？

それは昨日の騒動のせいですよー

五感すべてが血の涙を流して昨日のことを無かったことにしようとしてるんすよ。

ほんつとにあれば地獄だった…。

しかも、あのあと何人かが病院に運ばれ、

何人かが隔離され

何人かが行方不明になり

何人かがメンタルケアを受け…

寮チームの文化祭参加がダメになりそうなんすよね

それだけでなくも

火事騒ぎで未だに

赤坂先輩と

杉田が入院してるし…

「サカタツ、お前も検査受けとけ」

ダイ先輩

「何の検査っすか？」

…何の検査だ？

文化祭用の検。はすんでる筈だし

（ちなみに検。したの俺じゃないっすよ）

「覚えてるか 昨日の2年。全身に緑のぶつぶつが出来てた二人。」

「はあ。」

「あれ…うつるらしいぞ」

ひいひい！！

うつつたらどうなるんすか？！昨日の二人は普通そうだったすけど

「…まあ、あれだ。精神的な苦痛を味わうだけだ」

歯切れが悪いな。

本当にそれだけっすか？

「……まあ、俺なら驚かんが、驚く奴がいるかもしれんからな」

なんすか！！？

「……………う○こが緑色になるんだそうだ」

ひ
い
い
い
い
い

い
い
い
い
い
い
い
つ
!
!

「そつ、それはちよつと精神的ダメージ大きいすね……」

「うむ。二人も、色々な食材調味料を組み合わせたらああなったというから原因がよくわかるんだ。今のところ、症状はそれだけらしい。」

何の食材と調味料を合わせたら新種の病気を発明できるんだよ！！！！

「とりあえず、検査…してきます」

「ただうつてるかどうか検査するだけだから、気楽に行け」

つまり、その、抗体とか、薬とかはないんですね

まあ、とりあえず行つてきまーす

この流れで言うとなんて分かってるけど……

…おおおお、

お、

おおおおお、

おおお………

せ、先輩。

分かっててもこの衝撃は隠せませんね…

「みんなー！！サカタツも緑のうん。組らしいぞー！！」

シンちゃん先輩！！裏切り者ー！！

う。こ組ってなんすかー！！変なクラス分けしないでクダサイー！！

「流すな！！写メ撮ってからー！！」

「何もしないからあけるって！」

「俺のと交換してー！！」↑何の為っ？！

だあああああああああつ！！

やーめれーっ！！

………こんな下品な話にするつもり無かったのに！！

しくしく

とりあえず感染者は俺合わせて23人。

最初の媒体の二人が寮生だったこともあり、家に持って帰って家族にうつすということは避けられたので被害者は少人数で済んだ。

その後の二人も特別変わったことも無く、少し肌のつやがよくなっただけらしい。

「あの緑のぶつぶつは、体の悪いところを治してくれたのかも知れないな」

…一概に賛成する気にもなれないですけど俺も体の調子がいいことは確かです。

これにて、緑のぶつぶつ騒動は
終結でいいですね！！

「ああ。俺らの寮生としての最後の文化祭、めちゃくちゃだけだな……」

あ。そうだった。

結局大事をとって寮チームの文化祭参加は無くなっちゃったんだっけ

「残念すね」

ホンとは、もしそのまま文化祭に突入してたら死者が出かねないと思ってたところで。

先輩には悪いっすけど

よかったかなーなんて思ってたりもします。

「各学年の頑張ればいいじゃないっすか!!」

俺は人数が多かったせいで自分のクラスの準備からは
はずされちゃったけど

先輩達は3年団の頑張ってたじゃないっすか!!

「…そう。そうだな。」

あ。元気になりましたね!!

「じゃあっサカタツ!!!3年の最後の仕上げと行くぞ!!」

えっ?!何で俺まで

「それはお前が余ってるからじゃないか坂本。」

うおうわあつつつつ!!!!

近藤先輩!!

何でゴミ置き場から登場するんすか!!
いつからいたのっ?!

「使えるものがないか探していただけだ。準備に使う金があったらそれを節約して打ち上げの資金に回すのがいいに決まってるだろ」

ああ、そうですね……

つてあくどい！！

守銭奴！！

ん？守銭奴ってこの場合当てはまるのか？！
まあいいや

「とりあえずあと二日だ！！何はともあれ俺たちは最高のものを目指している。今は助っ人が必要だ。手伝ってくれ」

そっそんな丁寧に頼まれても…

展開的にはどうせ強制的に先輩たちに連れ去られてたんすから

「そ、そ。もうサカタツは捕獲してるしー」

え？シンちゃん先輩どういうことすか

ってボクの体にいつの間にかザイルがつ
なぜつつザイル？！

とにかく

『いえつと、げーと　ろーす！！』

なんでそこだけ無駄にドイツ語なんすかつ！！

ああああああああ

とりあえず強制就労してきます……

今日はここら辺で

それじゃ。

サカタッ

いきなりフィナーレ

今日は、待ちに待った文化祭です。

色々と事故があったせいで、俺ら寮チームの参加は見送られました。

何やかんやで楽しみです。

3年団の作業がまだ終わってなかったの、今日の朝まで俺も手伝ってました。

ああ、最近睡眠時間が不規則だなあ。

文化祭のスタートには間に合ったんですけどなぜか今まで姿を見せてなかった3年生

(3年生の3分の2は受験勉強を優先し、作業に携わってなかったんすけど)

が、青い顔して最後の仕上げを手伝ってたので多分、近藤先輩が何かしたんだろうと。

「サカタツ先輩」

あつ!! 赤坂先輩の火事事件で大荷物抱えたまま逃げようとしてぎっくり腰になりダイ先輩に助けても貰った1年の杉田じゃないか!!
「もう加減はいいのか?」

「説明ありがとうございます…はい、大分。先輩文化祭楽しんでらっしゃいますか」

随分丁寧な奴だな。さすが親が政治家となると違うんだろうか。
ぎっくり腰だけ。

「とりあえず片っ端から回るつもり。」

「そうですか。じゃ、1年のトコにも来て下さい。うちは冥途喫茶です。入院してたせいで手伝えなかったけど、俺は入り口で呼び込みすることになってるんで」

うんうん。冥途喫茶ね。冥途、冥途。
流行だからね。

え

冥途？

逝っちゃうんですか

さすがに流行じゃないですよねそれ。

「や、普通のメイド喫茶なんすけど、あ・もちろんみんな男です。コスチュームがダンプに突っ込んだ並の衝撃で。」

「冥途に逝けると」

「ついでにメニューが破壊的なんです」

どっかの出店見合わされたチームみたいだな。

「顔が緑になったり、空飛んでる気分になったりはしないよね」

どっかのチームみたいに。

「さすがにそれはないですけど、地味に一人腹痛で運ばれたらしい

です」

おー、そうかそうか。

「じゃ、太陽が東に沈んでから行くわ。先に他んどこ回ってきやーす」

さすがにノーモア緑のう。こ。

「センパイ…」

うおっびっくりした。誰だよ。

うお!!

顔面包帯ぐるぐる男!!

「だ。誰？」

「誰かわかったらうちの店の券あげます」

ンンンンンんんんんんん…

「…もしかして、電子レンジで卵爆発させた村上？」

あの時村上を止めようとして近くにいた緒方先輩も
顔面に卵の殻の破片が刺さって、黄身・白身のドットのペアルック
になってたんだっけ。
もちろんドット柄に火傷…。

「せーかーいい…いいいい痛い」

し、しゃべるなしゃべるな

「これ約束のうちの店の券です」

なになに、肩たたき0.3秒×10回券

あゝ ああよくわからん

「ありがとう、とりあえず馬が卑弥呼の物まねしたら行くわ」

何か今日はよく微妙な関係の人達に話しかけられるな。

「それはだな」

あ、出ると思った

近藤先輩

「なにっ！！見破られたか。不覚…」

えっ、説明なしで行かないでくださいよ

「今日で最終回だからだよ」

後ろから声がしたので振り返るとそこにはダイ先輩が。

あれでも今の声って

「オレです」

シンちゃん先輩！また肩車ですか！！
って

「最終回？！何がですか」

「サカタツ！！が」

え???！何でっすか
俺知らないっすよ

「作者が自分の才能のなさを実感したからだ」

ええ！！

そんな！！

俺全く何もしてない！！
俺の青春は?!

「作者は言っている。『すまない』と」

え?!陳謝?!

面白くも何ともない!

「作者は言っている。『ほっとけ』と」

シンちゃん先輩すご!!

作者と心通じてる?!

「更に作者は言っている。『あと、10行くらいで最後だからその前に文化祭楽しんできてください』と」

え！！10行？？

いいいいってきます！！

杉田のところも村上のところも行ってきます！！

杉田！！顔がマールブルだぞ！！

村上！！結局肩たたきは0.3秒×10回の3秒？！
トン・トン。で終わったぞ！！

ああああと何行？3行？？！

エエエエエエエエと何しよう何しよう

あ、そうだ！！

こちら辺で、失礼します！！ チャオ！！（最後がチャオって何なんだよ！！）

サカタツ

いきなりフィナーレ（後書き）

作者に、

もう少し根性と文才とユーモアがあれば・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5356e/>

サカタツ！！

2010年10月11日01時36分発行